



昭和20年、広島・呉。
わたしはここで生きている。

この世界の片隅に

監督 片渕須直
原作 こうの史代

にの

11月12日(土)公開



「この映画が見たい。」

全国47都道府県からクラウドファンディングで支援して下さった方々をはじめ多くの「この映画が見たい」という声に支えられ、製作しています。



僕らの暮らす日々との地続きを堅実に描きつつも、絵の「乱れ」までもが演出という衝撃的な技法をもつて、人のつながりの理想形を提示するある種の寓話として成立させた。この域に至ったマンガ表現をいかに描くのかは、マンガと同様に成熟に達しつつあるアニメーションという文化にとっても、挑戦であろう。楽しみでならない。

——「このマンガがすごい！」(宝島社 編集長・園部真一さん)

INTRODUCTION

原作は、第13回文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞したこうの史代さんの同名マンガ。心に染みるこの原作を、映画『マイマイ新子と千年の魔法』の片淵須直監督がアニメ映画化。NHK『花は咲く』アニメ版で感動を呼んだふたりが再びタッグを組む。徹底的な考証を行い、広島県産業奨励館(現・原爆ドーム)など、現在は見るできない街並みも活き活きと再現。主人公のすずさんたちがまるで実在したかのように描き出す。大変な毎日でも工夫を凝らして生きていく、すずさんの姿は、すべての世代に静かで確かな勇気を与えることになるでしょう。

STORY

すずは、広島市江波で生まれた絵が得意な少女。昭和19(1944)年、20キロ離れた町・呉に嫁ぎ18歳で一家の主婦となったすずは、あらゆるものが欠乏していく中で、日々の食卓を作り出すために工夫を凝らす。だが、戦争は進み、日本海軍の根拠地だった呉は、幾度もの空襲に襲われる。すずが大事に思っていた身近なものが奪われてゆく。それでもなお、毎日を築くすずの営みは終わらない。そして、昭和20(1945)年の夏がやってきた——。

STAFF

原作：こうの史代(『この世界の片隅に』双葉社刊)
監督・脚本：片淵須直
キャラクターデザイン：松原秀典／プロデューサー：丸山正雄・真木太郎
アニメーション制作：MAPPA／プロデュース：GENCO
後援：呉市・広島市
配給：東京テアトル／製作：「この世界の片隅に」製作委員会
www.konosekai.jp/ [@konosekai_movie](https://twitter.com/konosekai_movie)



呉市立美術館
KURE MUNICIPAL MUSEUM OF ART
www.kure-bi.jp/

マンガとアニメで見る

こうの史代『この世界の片隅に』展 開催!

前期：7月23日[土]→9月12日[月]／後期：9月14日[水]→11月3日[木・祝]
■原作マンガ全原画展示のほかアニメーションの原画、美術など貴重な制作素材を展示



テアトル新宿ほかにて11月12日(土) 全国公開!